Ｑ１：思考力・判断力・表現力等の育成に向けた、授業改善のポイントはどのようなものか。

Ａ：　学習指導要領では、言語を通した学習活動、例えば、記録、要約、説明、論述等の言語活動の充実により、思考力・判断力・表現力等の育成が効果的に図られるとしている。言語は、コミュニケーションや感性、情緒の基盤、そして、知的活動（論理や思考）に関する基盤である。特に各教科等の指導において思考力・判断力・表現力等を育成するためには、論理や思考といった知的活動に関する言語活動を意図的、計画的に位置付けることが不可欠となる。

そこで、授業改善としては「知的活動（論理や思考）に関する言語活動の充実」と「ねらいの達成状況」という２つのポイントから、それぞれ４つの観点で以下に提案する。

ポイント１　知的活動（論理や思考）に関する言語活動の充実

①教科のねらいを達成するために言語活動を取り入れる

いずれの教科においても、言語活動は国語科で培った力を基本として、各教科等の特質を踏まえつつ、ねらいの達成のために行うことが重要である。その際には、発達の段階に応じて適切な場で言語活動を位置付け、効果的に行うことが求められる。以下に学習活動例を示す。

①体験から感じ取ったことを表現する。	・日常生活や体験的な学習活動の中で感じたことを言葉や歌、絵、身体などを用いて表現する。
②事実を正確に理解し伝達する。	・身近な動植物の観察や地域の公共施設等の見学の結果を記述・報告する。
③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。	・需要・供給などの概念で価格の変動を捉えて生産・消費活動に生かす。 ・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して自分の生活を管理する。
④情報を分析・評価し、論述する。	・学習や生活上の課題について事柄を比較する、分類する、関連付けるなど考えるための技法を活用し、課題を整理する。 ・文章や資料を読み、自分の知識や経験に照らし合わせて自分なりの考えをまとめ、Ａ４・１枚（1000字程度）など所与の条件の中で表現する。
⑤課題について構想を立てて実践し、評価・改善する。	・理科の調査研究において仮説を立てて、観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり、改善したりする。
⑥互いの考えを伝え合い自らの考えや集団の考えを発展させる。	・予想や仮説の検証方法を考察する場面で、予想や仮説と検証方法を比較しながら考えを深め合う。 ・問答やディベート形式等で議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる。

②単元全体を見通して、適切な場で効果的に言語活動を位置付ける

「当該単元では、どのような力を身に付けるのか」「そのため、どこで言語活動を行い、どのような子どもの姿を目指すか」など、単元全体の見通しを明確にして最適な言語活動を位置付けることが必要である。また、学習計画やゴールを児童生徒と共有することも大切である。

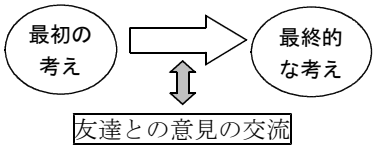
③根拠を明確にして説明させる

児童生徒が、自分の思いや考えを整理して言葉で表す際には、説明の仕方や根拠の示し方を発達の段階に応じて指導する。以下に参考例を示す。

小学校 低学年	○主語と述語（性質、状態、関係など）を明確にして表現する。 ○比較の視点（大きさ、色、形、位置など）を明確にして表現する。 ○判断と理由の関係を明確にして表現する。 ○時系列（「例えば」「まず」「次に」「そして」など）で表現する。
小学校 中学年	○判断と根拠、結果と原因の関係を明確にして表現する。 ○条件文（「もし…ならば～である」など）で表現する。 ○科学用語や概念を用いて表現する。
小学校 高学年 中学校	○演繹法や帰納法など論理を用いて表現する。 ○規則性やきまりを用いて表現する。 ○日常生活の中で気付いた問題について意見をまとめ、説得力のある発表をする。 ○新聞、読み物、統計その他の資料を基に、根拠に基づいて考えをまとめ、報告書を作成する。

④思考を広げたり、深めたりする話合いを位置付ける

他との共通点や相違点を比較し、友達と意見を交流した後には、最初の考えから最終的な考えへの変容を確認させる必要がある。話合いの後に再び個で考える時間を確保し、自分の考えを再構築させていく過程が大切である。交流の参考例を以下に示す。



小学校 低学年	○互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合う。 ○書いた物を読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合う。 ○文章の内容と自分の経験とを結び付けて、思いや考えをまとめ、発表し合う。
小学校 中学年	○互いの考えの共通点や相違点を整理し、司会者や提案者など役割や進行に沿って話し合う。 ○書いた物を発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合う。 ○考えを発表し合い、感じ方に違いがあることに気付く。
小学校 高学年 中学校	○互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う。 ○書いた物を発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。 ○本や文章等を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。

ポイント２　ねらいの達成状況に対する適切な見取りと指導

①全員の定着度を適宜確認する

単位時間でのねらいに対する、全員の定着度を見取れる場や方法について工夫する必要がある。言葉、図、式などを使ってどのように考えを説明しているかなど、児童生徒の理解の状況を把握、判断し、個に応じた支援をしていくことが大切である。

□机間巡視や机間指導に心掛けて、単位時間の中で必ず全員を見取っている。
□一人一人への声かけやコメントにより、個に応じた支援や学習意欲の喚起がなされている。

②自己評価、相互評価で振り返りをさせる

学習カードなどで自己評価や相互評価させることにより、学習者自身がねらいの達成状況について自覚することが必要である。

□見取りや学習の振り返りが、次の指導の改善や児童生徒の学習意欲の喚起につながっている。
□ねらいや見通しと同様に、振り返りも児童生徒と共有している。

③ねらいの達成を見取ることができるワークシートであるか、見直す

ワークシートの活用等では、載せる情報量が多過ぎても、また少な過ぎても、ねらいに迫る思考過程を見取りにくくなる。特に思考力・判断力・表現力等については、考えを整理したり、順序よく説明したりするなどの記述を重視することから、ねらいの達成に向けて思考過程を適切に見取れるワークシートを工夫する必要がある。

□ねらいに迫る思考過程を大切にし、穴埋めや抜き出し、短答ばかりでなく、記述させている。

④学びの積み重ねを踏まえて、ねらいに沿った見取りをする

児童生徒にとって小学校６年間と中学校３年間の学びは連続している。異校種間や学年間の系統性や既習事項を踏まえて、９年間の学びを見通した学習になるよう考慮する。

□前学年までの既習事項や今後の指導事項などを把握し、系統性を意識して授業を構想している。

【授業改善のための参考事例集】

「授業アイディア例」
(小/中) 国研

「とちぎの子どもの学力向上を図る授業改善例」
(小/中) 県教委

【参考資料】

- 「芳賀の子ども学力向上プラン」　H26.2 芳賀教育事務所、芳広教委
- 【中学校版】言語活動の充実に関する指導事例集　H24.6　文科省
- 【小学校版】言語活動の充実に関する指導事例集　H23.10　文科省